

# 四 半 期 報 告 書

第 8 9 期 第 3 四 半 期

自 平 成 2 4 年 1 0 月 1 日

至 平 成 2 4 年 1 2 月 3 1 日

関 西 電 力 株 式 会 社

大 阪 市 北 区 中 之 島 3 丁 目 6 番 1 6 号

E 0 4 4 9 9

第89期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）

# 四半期報告書

- 本書は金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく四半期報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用して、平成25年2月13日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書は末尾に綴じ込んでおります。

関西電力株式会社

## 目 次

【表紙】	1
第一部【企業情報】	2
第1【企業の概況】	2
1【主要な経営指標等の推移】	2
2【事業の内容】	2
第2【事業の状況】	3
1【事業等のリスク】	3
2【経営上の重要な契約等】	3
3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3【提出会社の状況】	8
1【株式等の状況】	8
(1)【株式の総数等】	
(2)【新株予約権等の状況】	
(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	
(4)【ライツプランの内容】	
(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】	
(6)【大株主の状況】	
(7)【議決権の状況】	
2【役員の状況】	9
第4【経理の状況】	10
1【四半期連結財務諸表】	11
(1)【四半期連結貸借対照表】	
(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	
2【その他】	18
第二部【提出会社の保証会社等の情報】	19
四半期レビュー報告書	20

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第89期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	関西電力株式会社
【英訳名】	The Kansai Electric Power Company, Incorporated
【代表者の役職氏名】	取締役社長 八木 誠
【本店の所在の場所】	大阪市北区中之島3丁目6番16号
【電話番号】	06（6441）8821（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 小槻 百典
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区内幸町2丁目2番2号 関西電力株式会社 東京支社
【電話番号】	03（3591）9261（代表）
【事務連絡者氏名】	東京支社長 片岡 正憲
【縦覧に供する場所】	関西電力株式会社 京都支店 （京都市下京区塩小路通烏丸西入東塩小路町579番地） 関西電力株式会社 神戸支店 （神戸市中央区加納町6丁目2番1号） 関西電力株式会社 奈良支店 （奈良市大森町48番地） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄3丁目8番20号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第88期 第3四半期 連結累計期間	第89期 第3四半期 連結累計期間	第88期
会計期間	自 平成23年 4月1日 至 平成23年 12月31日	自 平成24年 4月1日 至 平成24年 12月31日	自 平成23年 4月1日 至 平成24年 3月31日
売上高（営業収益）	(百万円) 2,046,507	2,081,990	2,811,424
経常損失（△）	(百万円) △95,753	△221,472	△265,537
四半期（当期）純損失（△）	(百万円) △118,110	△151,973	△242,257
四半期包括利益又は包括利益	(百万円) △135,186	△154,237	△247,119
純資産額	(百万円) 1,641,787	1,348,723	1,529,843
総資産額	(百万円) 7,379,042	7,505,619	7,521,352
1株当たり四半期（当期）純損失金額（△）	(円) △132.18	△170.08	△271.12
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額	(円) —	—	—
自己資本比率	(%) 22.0	17.7	20.1

回次	第88期 第3四半期 連結会計期間	第89期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年 10月1日 至 平成23年 12月31日	自 平成24年 10月1日 至 平成24年 12月31日
1株当たり四半期純損失金額（△）	(円) △155.11	△39.38

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 売上高には、消費税等は含まれていない。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在せず、また、1株当たり四半期（当期）純損失であるため記載していない。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。  
また、前年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

### 2【経営上の重要な契約等】

該当事項はない。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの主たる事業である電気事業では、節電のご協力をいただいたことや、企業の生産活動が弱めに推移していることなどから、総販売電力量は1,044億1千万kWhと、前年同期に比べて2.8%減少した。販売電力量は減少したものの、燃料価格の上昇による燃料費調整額の増加により電灯電力料収入は増加した。

また、電気事業以外の事業においては、「情報通信」、「総合エネルギー」、「生活アメニティ」といった事業分野を中心に展開を進めている。

情報通信では、F T T Hサービスを軸に収益拡大を図っており、同サービスの契約件数も増加した。また、その他についても、総合エネルギーではガス販売、ユーティリティサービスなどのエネルギー・ソリューションを、生活アメニティでは生活関連サービスと不動産関連サービスを提供し、各々の分野で収益基盤の拡大を進めている。

一方、支出面では、徹底した経営効率化に努めたものの、原子力発電所の利用率の低下や燃料価格の上昇の影響により、火力燃料費や他社からの購入電力料が大幅に増加したことなどから、営業費用は増加した。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高（営業収益）は2,081,990百万円と前年同期に比べて35,483百万円の増収、営業損失は197,589百万円と前年同期に比べて129,528百万円の悪化、経常損失は221,472百万円と前年同期に比べて125,719百万円の悪化、四半期純損失は151,973百万円と前年同期に比べて33,863百万円の悪化となった。

セグメントの業績は、次の通りである。

#### ①電気事業

収入面では、販売電力量は減少したものの、燃料価格の上昇による燃料費調整額の増加により電灯電力料収入が増加したことなどから、売上高は1,780,379百万円と前年同期に比べて12,850百万円の増収（+0.7%）となった。

なお、当第3四半期連結累計期間は、負荷平準化料金メニュー5.8万件、負荷平準化・省エネ・低炭素化に資するシステム1,800件の採用実績となった。

一方、支出面では、徹底した経営効率化に努めたものの、原子力発電所の利用率の低下や燃料価格の上昇の影響により、火力燃料費や他社からの購入電力料が大幅に増加したことなどから、営業損失は235,998百万円と前年同期に比べて132,875百万円の悪化となった。

#### ②情報通信事業

関西一円に整備された光ファイバー網を活用し、お客さまのニーズに応じた幅広いメニューを取り揃え、家庭向け、企業向けに総合的な情報通信サービスを提供している。

収入面では、厳しい競争下にあるが、積極的な販売活動によりお客さまの獲得を進めている。中でも主力となるF T T Hサービスについては、近畿2府4県の90%を越えるエリアカバー率の強みを活かしながら、「光インターネット+光電話+光テレビ」の3つのサービスを「e o光」ブランドで提供しており、同サービスの契約件数は当第3四半期連結会計期間末で137万件と、前年同期末に比べて7.3%増加させることができた。

この結果、情報通信事業の売上高は115,272百万円と前年同期に比べて5,155百万円の増収（+4.7%）、営業利益は19,753百万円と前年同期に比べて232百万円の増益（+1.2%）となった。

### ③その他

総合エネルギーでは、ガスなどのエネルギー販売やユーティリティサービスなどを提案し、お客さまにとって最適なエネルギー・ソリューションを提供している。また生活アメニティでは、ホームセキュリティや介護、健康管理支援などの生活関連サービスおよび先進的な省CO<sub>2</sub>のマンションやビルの開発をはじめとする不動産関連サービスを提供し、安心・安全・快適なくらしの実現をサポートしている。

収入面では、総合エネルギーにおいて、ガス販売量の増加とガス販売価格の上昇により売上高が増加した。

この結果、その他の売上高は186,338百万円と前年同期に比べて17,476百万円の増収（+10.3%）となり、営業利益は17,276百万円と前年同期に比べて3,447百万円の増益（+24.9%）となった。

### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、対処すべき課題の見直しを行っている。以下の内容は、見直し後の事業上及び財務上の対処すべき課題の全文を記載している。

平成24年度は、安全確保を大前提とした原子力プラントの再稼動と電力需給の安定確保に全力で取り組んできた。その結果、今夏は厳しい需給状況であったが、お客さまからの節電のご協力による需要の減少と大飯発電所3号機、4号機の再稼動などによる供給力の増加により、万が一のセーフティネットとして準備していた計画停電を実施することなく、乗り切ることができた。

今冬については、電力を安定供給する上で最低限必要な予備率となる3%以上を確保できる見通しであるが、気温の変動等による電力需要の急増や発電所のトラブルなど、不測の事態により、電力需給がひっ迫することも考えられるため、国から「数値目標を伴わない節電」の要請があった。この国の方針を踏まえ、自治体の皆さまと三位一体で検討を進めてきた結果、節電のお願いをさせていただくに至った。

また、当社は、停止中の原子力プラントの再稼動時期が見通せない中、電力の安全・安定供給のために、火力発電の焼き増しや、長期計画停止中であった海南発電所2号機の再稼動、姫路第一発電所におけるガスタービンの設置など、最大限の供給力確保に取り組んできた。その結果、火力燃料費等の負担が大幅に増加したことから、当社は、徹底した経営効率化と、内部留保の取り崩しにより、火力燃料費等のコスト増を可能な限り吸収してきたが、大飯発電所3号機、4号機以外の原子力プラントの年度内の再稼動が見込めず、平成24年度通期の個別の業績は経常損失が4,200億円程度、当期純損失が2,900億円程度と過去最大の赤字を更新する見通しとなった。

引き続き、停止中の原子力プラントの再稼動が見通せない状況が続けば、現行の料金水準では、火力燃料費などの費用の大幅な増大をまかなうことは極めて困難であり、財務基盤がさらに悪化し、最大の使命である電力の安全・安定供給に支障をきたしかねないことから、人件費や広告費の削減等、さらなる徹底した経営効率化を前提とした上で、苦渋の決断として、平成25年4月1日からの電気料金の値上げをお願いさせていただくため、平成24年11月26日に経済産業大臣に申請を行った。

当社は、引き続き、原子力プラントの再稼動と電力の安全・安定供給に全力を尽くすとともに、さらなる徹底した経営効率化に最大限の努力を積み重ねていく。

その上で、全従業員がお客さま第一の精神を徹底し、新たな料金や契約内容などを丁寧にご説明させていただくとともに、お客さまの省エネルギーニーズにお応えする効率的な電気の使い方に関するご提案などお客さまの立場に立った活動に努めていく。

また、東日本大震災以降、電気事業のあり方そのものが変革を求められる中、お客さまや社会の声を真摯に受け止め、皆さまからの新たなご期待にお応えしていくため、卸電力市場の活性化や送配電部門の中立性のさらなる向上に取り組むとともに、「火力発電の高度利用に向けた取組みの推進」「再生可能エネルギーの普及・拡大への貢献」「競争の時代を見据えたお客さまの選択肢の拡大」といった、業務の変革や新たなサービスの開発などにも、今後順次、取り組んでいく。

### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、7,800百万円である。なお、当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はない。

(4) 生産、受注及び販売の実績

主たる事業である電気事業の状況は以下のとおりである。

①需給実績

種別		平成23年度第3四半期 連結累計期間 (平成23年4月～ 平成23年12月) (百万kWh)	平成24年度第3四半期 連結累計期間 (平成24年4月～ 平成24年12月) (百万kWh)	前年 同期比 (%)	
発電電力量	自社	水力発電電力量	11,810	10,126	85.7
		火力発電電力量	49,767	64,397	129.4
		原子力発電電力量	31,120	9,855	31.7
		新エネルギー発電電力量	81	77	95.5
	他社受電電力量		23,912 △948	26,039 △830	108.9 87.6
	融通電力量		4,989 △1,820	6,566 △961	131.6 52.8
	揚水発電所の揚水用電力量		△1,780	△1,527	85.8
	合計		117,131	113,742	97.1
損失電力量等		△9,677	△9,334	96.5	
販売電力量		107,454	104,408	97.2	
出水率 (%)		109.4	90.7	—	

(注) 1 火力は汽力と内燃力の合計である。

2 新エネルギー発電電力量は、汽力発電設備におけるバイオマスと新エネルギー等発電設備における太陽光による発電電力量である。

3 他社受電電力量及び融通電力量の上段は受電電力量、下段は送電電力量を示す。

4 揚水発電所の揚水用電力量とは、貯水池運営のための揚水用に使用する電力量である。

5 販売電力量の中には自社事業用電力量（平成23年度第3四半期累計期間 118百万kWh、平成24年度第3四半期累計期間 109百万kWh）を含んでいる。

6 平成23年度第3四半期累計期間出水率は、昭和55年度から平成21年度までの第3四半期累計期間の30カ年平均に対する比である。平成24年度第3四半期累計期間出水率は、昭和56年度から平成22年度までの第3四半期累計期間の30カ年平均に対する比である。

7 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。

② 販売実績

a. 契約高

種別		平成23年12月31日現在	平成24年12月31日現在	前年同期比 (%)
需要家数 (契約口数)	電灯	12,501,215	12,566,916	100.5
	電力	1,074,429	1,055,128	98.2
	計	13,575,644	13,622,044	100.3
契約電力 (kW数)	電灯	10,643,212	11,054,199	103.9
	電力	7,698,741	7,537,757	97.9
	計	18,341,953	18,591,956	101.4

(注) 本表には、特定規模需要及び他社販売を含まない。

b. 販売電力量

			平成23年度第3四半期 連結累計期間 (平成23年4月～平成23年12月) (百万kWh)	平成24年度第3四半期 連結累計期間 (平成24年4月～平成24年12月) (百万kWh)	前年同期比 (%)
特定規模 需要以外 の需要	電灯計		34,707	34,099	98.2
	電力	低圧	3,962	3,836	96.8
		その他	562	542	96.3
		電力計	4,524	4,378	96.8
電灯電力計		39,231	38,477	98.1	
特定規模需要			68,223	65,932	96.6
合計			107,454	104,408	97.2

(注) 1 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。

2 本表には、下記の他社販売及び電力会社融通(送電分)を含まない。

c. 料金収入

	平成23年度第3四半期 連結累計期間 (平成23年4月～平成23年12月) (百万円)	平成24年度第3四半期 連結累計期間 (平成24年4月～平成24年12月) (百万円)	前年同期比 (%)
電灯	698,240	707,020	101.3
電力	1,010,312	1,019,377	100.9
合計	1,708,552	1,726,398	101.0

(注) 1 本表には、特定規模需要を含む。

2 本表には、下記の他社販売及び電力会社融通(送電分)を含まない。

3 本表及び下記の金額には、消費税等を含まない。

	平成23年度第3四半期 連結累計期間 (平成23年4月～平成23年12月)	平成24年度第3四半期 連結累計期間 (平成24年4月～平成24年12月)	前年同期比 (%)
他社販売電力量 (百万kWh)	948	830	87.6
同上販売電力料 (百万円)	8,061	7,395	91.7
融通電力量 (百万kWh)	1,820	961	52.8
同上販売電力料 (百万円)	21,743	10,417	47.9

d. 産業別（大口電力）需要実績

種別		平成23年度第3四半期 連結累計期間 (平成23年4月～平成23年12月) (百万kWh)	平成24年度第3四半期 連結累計期間 (平成24年4月～平成24年12月) (百万kWh)	前年 同期比 (%)	
鉱工業	鉱業	70	71	102.6	
	製造業	食料品	1,969	1,914	97.2
		繊維工業	509	469	92.2
		パルプ・紙	590	565	95.8
		化学工業	3,697	3,496	94.6
		石油・石炭	314	303	96.7
		ゴム製品	269	250	93.0
		窯業・土石	2,502	2,429	97.1
		鉄鋼業	6,342	5,968	94.1
		非鉄金属	1,723	1,619	93.9
		機械器具	7,154	6,363	88.9
		その他	3,740	3,568	95.4
計	28,808	26,944	93.5		
計	28,878	27,015	93.5		
その他	鉄道業	3,417	3,340	97.7	
	その他	3,382	3,414	101.0	
	計	6,799	6,754	99.3	
合計		35,677	33,769	94.7	

(注) 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。

(5) 主要な設備

(電気事業)

当第3四半期連結累計期間において、新設した設備

区分	所在地	発電所名	認可出力 (kW)	新設年月
内燃力発電設備	兵庫県姫路市	姫路第一	65,400	平成24年8月

(注) 当第3四半期連結累計期間において、姫路第一発電所にガスタービン発電設備が完成し運転を開始した。

当第3四半期連結累計期間において、変更した主な工事計画

工事件名	最大出力 (千kW)	運転開始年月
姫路第二発電所設備更新工事 (1～6号機)	2,919	H25/10～H27/6

(注) 当第3四半期連結累計期間において、運転開始年月を工期の前倒しに伴い変更した。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,784,059,697
計	1,784,059,697

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	938,733,028	938,733,028	大阪証券取引所 市場第一部 東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株である。
計	938,733,028	938,733,028	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はない。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	—	938,733,028	—	489,320	—	67,031

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしている。

①【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 44,873,600	—	単元株式数100株
	（相互保有株式） 普通株式 785,600	—	同上
完全議決権株式（その他）	普通株式 889,041,600	8,890,416	同上
単元未満株式	普通株式 4,032,228	—	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	938,733,028	—	—
総株主の議決権	—	8,890,416	—

(注) 1 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が14,400株含まれている。

また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数144個が含まれている。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の50株及び自己株式119株が含まれている。

②【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
（自己保有株式） 関西電力株式会社	大阪市北区中之島 3丁目6番16号	44,873,600	—	44,873,600	4.78
（相互保有株式） 株式会社きんでん	大阪市北区本庄東 2丁目3番41号	785,600	—	785,600	0.08
計	—	45,659,200	—	45,659,200	4.86

(注) このほか、株主名簿上は当社名義となっているが、実質的には所有していない株式が400株ある。

なお、当該株式は「① 発行済株式」の「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式に含まれている。

2【役員の状況】

該当事項はない。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年8月10日内閣府令第64号）に準拠し、「電気事業会計規則」（昭和40年6月15日通商産業省令第57号）に準じて作成している。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
固定資産	6,797,451	6,839,602
電気事業固定資産	3,594,512	3,547,836
水力発電設備	326,256	316,082
汽力発電設備	452,128	438,233
原子力発電設備	362,976	376,092
送電設備	1,044,832	1,014,394
変電設備	416,525	413,225
配電設備	853,765	847,468
業務設備	115,780	113,777
その他の電気事業固定資産	22,245	28,563
その他の固定資産	610,044	621,284
固定資産仮勘定	464,973	477,323
建設仮勘定及び除却仮勘定	464,973	477,323
核燃料	527,737	537,436
装荷核燃料	95,355	89,367
加工中等核燃料	432,381	448,069
投資その他の資産	1,600,184	1,655,721
長期投資	253,126	246,516
使用済燃料再処理等積立金	611,762	586,473
繰延税金資産	386,582	464,012
その他	350,970	361,002
貸倒引当金（貸方）	△2,258	△2,283
流動資産	723,900	666,017
現金及び預金	129,234	100,346
受取手形及び売掛金	181,023	182,335
たな卸資産	166,068	158,461
繰延税金資産	46,208	42,555
その他	203,779	184,453
貸倒引当金（貸方）	△2,413	△2,135
資産合計	7,521,352	7,505,619

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債及び純資産の部		
固定負債	4,928,742	5,026,729
社債	1,491,491	1,421,520
長期借入金	1,830,607	2,003,216
退職給付引当金	365,689	370,008
使用済燃料再処理等引当金	656,418	642,484
使用済燃料再処理等準備引当金	42,624	44,735
資産除去債務	437,311	443,895
繰延税金負債	251	163
その他	104,348	100,705
流動負債	1,048,161	1,121,931
1年以内に期限到来の固定負債	366,221	446,063
短期借入金	152,264	145,445
コマーシャル・ペーパー	30,000	110,000
支払手形及び買掛金	180,439	167,471
未払税金	47,484	32,433
その他	271,751	220,518
特別法上の引当金	14,604	8,234
濁水準備引当金	14,604	8,234
負債合計	5,991,508	6,156,896
株主資本	1,484,280	1,305,458
資本金	489,320	489,320
資本剰余金	66,634	66,634
利益剰余金	1,024,581	845,768
自己株式	△96,256	△96,265
その他の包括利益累計額	25,564	22,809
その他有価証券評価差額金	26,669	29,902
繰延ヘッジ損益	4,930	4,120
為替換算調整勘定	△6,035	△11,213
少数株主持分	19,998	20,455
純資産合計	1,529,843	1,348,723
負債純資産合計	7,521,352	7,505,619

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
営業収益	2,046,507	2,081,990
電気事業営業収益	1,767,529	1,780,379
その他事業営業収益	278,977	301,610
営業費用	2,114,568	2,279,580
電気事業営業費用	1,869,635	2,017,070
その他事業営業費用	244,932	262,509
営業損失(△)	△68,060	△197,589
営業外収益	28,112	26,054
受取配当金	2,912	2,906
受取利息	6,816	8,105
持分法による投資利益	5,510	8,215
その他	12,873	6,827
営業外費用	55,805	49,937
支払利息	38,466	41,677
その他	17,339	8,260
四半期経常収益合計	2,074,619	2,108,045
四半期経常費用合計	2,170,373	2,329,517
経常損失(△)	△95,753	△221,472
剰余金引当又は取崩し	5,405	△6,370
剰余金引当	5,405	—
剰余金引当取崩し(貸方)	—	△6,370
税金等調整前四半期純損失(△)	△101,159	△215,102
法人税、住民税及び事業税	13,207	11,293
法人税等調整額	3,254	△74,319
法人税等合計	16,461	△63,025
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△117,621	△152,076
少数株主利益又は少数株主損失(△)	489	△102
四半期純損失(△)	△118,110	△151,973

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△117,621	△152,076
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,748	1,997
繰延ヘッジ損益	△1,305	△809
為替換算調整勘定	△11,724	△5,566
持分法適用会社に対する持分相当額	△786	2,217
その他の包括利益合計	△17,565	△2,160
四半期包括利益	△135,186	△154,237
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△133,637	△154,728
少数株主に係る四半期包括利益	△1,549	491

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に規定する償却方法により、減価償却を実施している。 これによる営業損失、経常損失および税金等調整前四半期純損失への影響は軽微である。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

(1) 社債に対する保証債務

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
日本原燃株	6,296百万円	6,296百万円

(2) 借入金等に対する保証債務

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
日本原燃株	178,345百万円	157,593百万円
日本原子力発電株	—	41,652
セノコ・エナジー	9,004	12,021
・プライベート・リミテッド		
ロジャナ・パワー	536	565
・カンパニー・リミテッド		
原燃輸送株	38	15
提携住宅ローン利用顧客	2,555	65
その他	3	2
計	190,482	211,916

(3) スワップ契約に対する保証債務

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
セノコ・エナジー	2,914百万円	1,611百万円
・プライベート・リミテッド		

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	299,800百万円	282,603百万円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

平成23年6月29日の定時株主総会において、次のとおり決議している。

・普通株式の配当に関する事項

- |            |            |
|------------|------------|
| ① 配当金の総額   | 26,816百万円  |
| ② 1株当たり配当額 | 30円        |
| ③ 基準日      | 平成23年3月31日 |
| ④ 効力発生日    | 平成23年6月30日 |
| ⑤ 配当の原資    | 利益剰余金      |

平成23年10月31日開催の取締役会において、次のとおり決議している。

・普通株式の配当に関する事項

- |            |             |
|------------|-------------|
| ① 配当金の総額   | 26,816百万円   |
| ② 1株当たり配当額 | 30円         |
| ③ 基準日      | 平成23年9月30日  |
| ④ 効力発生日    | 平成23年11月30日 |
| ⑤ 配当の原資    | 利益剰余金       |

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

平成24年6月27日の定時株主総会において、次のとおり決議している。

・普通株式の配当に関する事項

- |            |            |
|------------|------------|
| ① 配当金の総額   | 26,816百万円  |
| ② 1株当たり配当額 | 30円        |
| ③ 基準日      | 平成24年3月31日 |
| ④ 効力発生日    | 平成24年6月28日 |
| ⑤ 配当の原資    | 利益剰余金      |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	電気事業	情報通信 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,767,529	110,116	1,877,645	168,861	2,046,507	—	2,046,507
セグメント間の 内部売上高又は振替高	8,678	38,887	47,565	182,901	230,467	△230,467	—
計	1,776,208	149,003	1,925,211	351,763	2,276,974	△230,467	2,046,507
セグメント利益又は 損失(△)	△103,123	19,520	△83,603	13,829	△69,774	1,713	△68,060

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総合エネルギー、生活アムニティおよびその他の連結子会社である。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額1,713百万円は、セグメント間取引消去である。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っている。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	電気事業	情報通信 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,780,379	115,272	1,895,652	186,338	2,081,990	—	2,081,990
セグメント間の 内部売上高又は振替高	8,905	38,092	46,997	174,139	221,136	△221,136	—
計	1,789,284	153,364	1,942,649	360,478	2,303,127	△221,136	2,081,990
セグメント利益又は 損失(△)	△235,998	19,753	△216,245	17,276	△198,969	1,379	△197,589

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総合エネルギー、生活アムニティおよびその他の連結子会社である。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額1,379百万円は、セグメント間取引消去である。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っている。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額および算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
1 株当たり四半期純損失金額 (△)	△132.18円	△170.08円
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額 (△)	△118,110百万円	△151,973百万円
普通株主に帰属しない金額	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額 (△)	△118,110百万円	△151,973百万円
普通株式の期中平均株式数	893,556,353株	893,532,657株

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在せず、また、1株当たり四半期純損失であるため記載していない。

2 【その他】

該当事項なし。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 2月12日

関西電力株式会社

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 矢 吹 幸 二 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡 邊 明 久 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 関 口 浩 一 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている関西電力株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、関西電力株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。